# 東京大学附属総合図書館蔵『伯耆国米子城廻絵図』の表現内容についての考察

油　浅　耕　三*

（平成１５年１０月３１日　受理）

# Some Considerations on the Contents of Drawing and Writing of "Houki-no-kuni Yonago Jou Mawari Ezu" in the Collection of the General Library Attached to Tokyo University

Kouzou YUASA*

This paper, deals with the contents of drawing and writing of "Houki-no-kuni Yonago Jou Mawari Ezu" (the thinking map as the oldest in the maps of the castle and castletown of Yonago) in the collection of the General Library Attached to Tokyo University. As the result result of this considerations, the important points areas follows: (1)This map can the thinking of scale-down copy of "shoho shiro ezu" (the maps of castle and castle town compiled by the order of the tokugawa shogunate, 1644) (2) The date of this map supposed to have been drawn up during 1645～1656.

**Keywords**: Yonago , Shiro Ezu (castle map) , Jokamachi Ezu (castle town map), Shoho Shiro Ezu, castle, castle town,

## １．緒　言

江戸時代初頭の正保元年（１６４４）１２月，徳川家光による幕命によって，全国の大名が調製し各藩より１枚ずつ提出された城の絵図は，およそ１６０枚が提出された．この提出された絵図は，現在，「正保城絵図」と称され，国立公文書館蔵の６３枚は，国の重要文化財（歴史資料）に指定され，他の所蔵となっているものが３枚存在する[1]．また，藩の控えや下絵図，写し絵図と考えられる正保城絵図も数枚が伝えられている．本論文は，米子の正保城絵図とみられる東京大学附属総合図書館蔵の『伯耆国米子城廻絵図』（以下，「城廻絵図」と省略する）について，表現内容を考察するものである．

## ２．米子の城と城下町絵図

*建築学科　教授

米子城が，現状の湊山（約９０ｍ）の地に築かれたのは，山名氏によるといい，応仁年間（１４６８）の頃といわれる．その後，吉川氏・中村氏・加藤氏・池田氏・荒尾氏の入城するところとなり明治に至っている．

管見する米子の城と城下町の絵図を整理したのが「Table 1・2」である．城の絵図は，内堀内の全体を描いた絵図（建築図は除く）とし，城下町を含む絵図は城下町の絵図として分類した．なお，米子城では，「Fig. 1」の⑦・⑧・⑨（以下，Fig. 1を省略する）の城側を内曲輪，⑩－⑬側を外曲輪と称していた．

「Table 1」は，ほとんどが城の修復図で年代の書込みのあるものである．⑮は，山・植生・建物のみを描いたものでその他の書込みのない絵図であるが，石垣・天守・櫓の表現様態が②のみに類似している．②・⑮が，鳥取藩より伝わる一連の史料の絵図であることを考えると同じ絵師の手によるのかも知れない．⑯は，砲台が描かれていることから江戸時代末期の絵図としてみられている[2]．

「Table 2」は，寺院の移転や名称変更，藩士の家督相続による絵図の年代考定である[3]．

Fig. 1との関係でみると，⑫の亀嶋にある寺は，米子を支配していた鳥取藩筆頭家老の荒尾氏により元禄８年に泰蔵寺を禅源寺と改め，宝永８年（１７１１に，⑭よりさらに東北の位置にある博労町に移転し泰蔵寺と称したこと[3]．⑮は日野町であるが，ここの福合院（福厳院）が，⑬の寺町の東端に移転するのが宝永２年（１７０５）であること[3]．⑥は，藩士の家督相続によるもの[3]である．⑪は，年代不詳であるが，１７世紀末頃[4]のも

Table 1　The maps of Yonago castle

| | | 名称 | 年代 | 所蔵 | 大きさ:たて×よこ(cm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 城図 | ① | 『米子城石垣御修復御願絵図』 | 寛文7年(1667) | 鳥取県立博物図館 | 96.0×120.0 | 彩色 |
| | ② | 『米子城修復願』 | 元禄3年(1690) | 鳥取県立博物図館 | 128.0×105.0 | 彩色 |
| | ③ | 『米子城絵図』 | 元禄15年(1702)4月 | 鳥取県立博物図館 | 90.0×88.0 | 彩色 |
| | ④ | 『米子城絵図』 | 元禄15年(1702)9月 | 鳥取県立博物図館 | 60.0×47.0 | 彩色 |
| | ⑤ | 『米子城修復願図』 | 享保2年(1717) | 鳥取県立博物図館 | 71.0×71·0 | 彩色 |
| | ⑥ | 『米子城明細図』 | 元文4年(1739) | 鳥取県立博物図館 | 158·0×175·0 | 彩色 |
| | ⑦ | 『米子御城之図』 | 明和2年(1765) | 鳥取県立博物図館 | 102·0×114·0 | 彩色 |
| | ⑧ | 『伯耆国米子城絵図』 | 天明2年(1782) | 鳥取県立博物図館 | 92.0×93.0 | 彩色 |
| | ⑨ | 『伯耆国米子城絵図』 | 寛政5年(1793) | 鳥取県立博物図館 | 94·0×95·0 | 彩色 |
| | ⑩ | 『米子御城破損ヶ所絵図』 | 弘化4年(1847) | 鳥取県立博物図館 | 100.0×90.0 | 彩色 |
| | ⑪ | 『伯耆国米子城絵図』 | 嘉永元年(1848) | 鳥取県立博物図館 | 107·0×125·0 | 彩色 |
| | ⑫ | 『米子御城之図』 | 嘉永5年(1852) | 鳥取県立博物図館 | 91·0×81.0 | 彩色 |
| | ⑬ | 『米子御城之図』 | 安政2年(1855) | 鳥取県立博物図館 | 89·0×114·0 | 彩色 |
| | ⑭ | 『伯耆国米子城絵図』 | 文久3年(1863) | 鳥取県立博物図館 | 94.0×91.0 | 彩色 |
| | ⑮ | 『米子城裏絵図』 | 年代不詳 | 鳥取県立博物図館 | 90.0×93.0 | 彩色 |
| | ⑯ | 『米子御城平絵図』 | 年代不詳 | 鳥取県立博物図館 | 171·0×165.0 | 彩色 |

Table 2　The maps of Yonago castle town

| | | 名称 | 年代 | 所蔵 | 大きさ:たて×よこ(cm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 城下図 | ① | 『伯耆国米子城廻絵図』 | 元禄8年(1695)以前 | 東京大学附属総合図書館 | 100.0×106.0 | 彩色 |
| | ② | 『伯州米子』 | 元禄8年(1695)以前 | 鳥取県立博物館・国立公文書館 | 39.0×29.0 | 彩色 |
| | ③ | 『米子城下古絵図』 | 元禄8年(1695)以前 | 米子市立図書館 | 148.0×145.0 | 彩色 |
| | ④ | 『伯耆国米子平図』 | 宝永6年(1709) | 鳥取県立博物図館 | 80.0×80.0 | 彩色 |
| | ⑤ | 『湊山金城米子新府』 | 享保5年(1720) | 鳥取県立博物図館 | 41.0×58.0 | 彩色 |
| | ⑥ | 『米子御城下図』 | 明和6年(1769)頃 | 鳥取県立博物図館 | 215.0×204.0 | 彩色 |
| | ⑦ | 『伯州米子之図』 | 元禄3年(1690)以降 | 鳥取県立博物図館 | 244·0×217·0 | 彩色 |
| | ⑧ | 『米子御城下不残夫々間数絵図』 | 宝永7年(1710)以降 | 鳥取県立博物図館 | 164·0×151·0 | 彩色 |
| | ⑨ | 『米子之図』 | 寛政年間(1795頃)以降 | 鳥取県立博物図館 | 201·0×214·0 | 彩色 |
| | ⑩ | 『米子領地面全絵図』 | 安政4年(1857)以降 | 米子市立山陰歴史館 | 65.0×95.0 | 彩色 |
| | ⑪ | 『伯耆米子』 | 年代不詳 | 広島市立中央図書館(浅野文庫) | 『諸国当城之図』(冊子本) | 彩色 |

のと考察されている.

## 3.『伯耆国米子城廻絵図』の表現内容

「城廻絵図」は，たて１００．０ｃｍ×よこ１０６．０ｃｍである.

城廻絵図には，本丸・二丸・三丸の書込みはなく，曲輪の用語としては，5（以下，Fig. 1を省略する）の部分に「此丸」とある.

外題は，題簽の形をとり「伯耆国城図」とある．内題は，城廻絵図の右手上に「伯耆国米子城廻絵図」とある．彩色は，道路の中心線が朱，侍屋敷が肌色，町屋・樹木が薄黒，寺・明地が薄黄土，山・土居が緑，水が紺である.

書込み内容は，天守台・天守・長屋・矢倉・櫓・番所・門・蔵（⑥）・塀・石垣・馬屋・堀・道・橋・侍屋敷・町屋敷・寺屋敷・蔵屋敷・馬場（⑧）・山・島（⑫）・沢（⑪）植生に分けられる.

書込み寸法は，天守台部分で「天守台拾間ニ八間五重」・「小天守台七間ニ六間四重」・「石垣高サ五間腰石垣へ二間アリ」「明地長サ四十八間横八間」，長屋部分では「長屋二間ニ四間」・「矢倉三間半ニ三間」（④）などがみられ，天守台の規模は，現状に沿っている[5].

櫓・番所・門では「二間四間櫓」「二間四方番所」「壱間ニ二間かふき門」（⑤），堀では「堀広サ十三間水深サ五尺五寸石垣高壱間半」（⑧—⑩間），道では「馬道百四十三間」「歩道百拾間」（⑦・⑨），山では「湊山高サ平地ヨリ四拾三間五尺」（④）「飯山高サ平地ヨリ二十七間五尺」（③）「感応寺山高サ地ヨリ四拾間半　天守土台ヨリ指渡百八十間」（②）

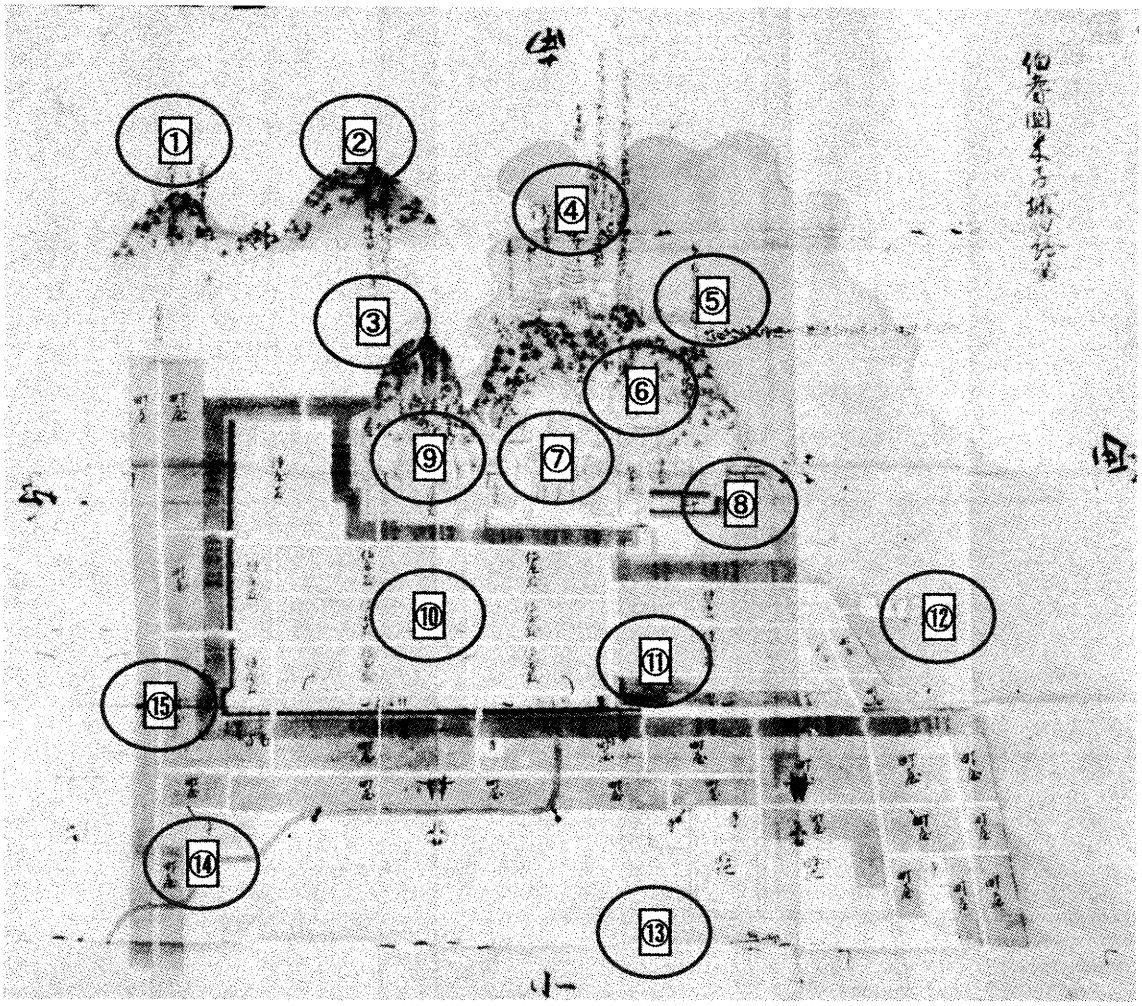


**Fig. 1 "Houki- no-kuni Yonago Jou Mawari Ezu" (possession of the general library attached to Tokyo university)**

「宗泉寺山高サ地ヨリ三十六間半　天守土台ヨリ指渡二百拾間」(①) がみられる.

これらの表現内容をみると，正保城絵図との関係に言及しなければならない．正保元年の「国絵図城絵図」の調製条項の内，城絵図調製の内容項目は，９つの条項である[6]が，城廻絵図は，これに沿った調製内容といえる.

また，幕府へ提出された正保城絵図との関係でみると，絵図の大きさでは，最小クラスの三原の「東西１６３ｃｍ×南北１３８ｃｍ」，日出の「東西１８６ｃｍ×南北１６４ｃｍ」と比すと，なお小さな点が指摘できる.

このように，絵図が小さいこと，「此丸」という書き込みはあるものの本丸・二丸とった曲輪名がみられないこと．ほとんどの正保城絵図にみられる道路長さが，城郭部分の１部に限られていることについても検討すべき点として注目すべきところであろう.

しかしながら、曲輪名の書込みのない例は，山形に，道路の中心線としての朱線のみられないのは，笠間にみられる．町の部分での道路長さの書込みのない例は，笠間・備中松山の例がある.

一方，これらの笠間・山形・備中松山にしても，城郭部での山の高さや道路長さ，周辺の山の高さ城との間数については，いずれも書込みがある．米子の城廻絵図では，「此丸」という書込みもあって，朱線もあり，城郭部ではあるが，道路長さの書込みもみられる．

年代の点を除き，全体をみるとこの城廻絵図は，正保城絵図といえる表現内容といえる．

## 4．『伯耆国米子城廻絵図』の年代考定

城廻絵図の年代は，最古の寛文７年（１６６７）の修復絵図（Table 1－①）と元禄３年（１６９０）以降の城下町絵図（Table ２－⑦）の双方以前と考えて不都合がみられない表現内容といえる．

内題の「城廻」という書込みは，唐津や八代の正保城絵図に例がある．城と周辺の山の高さや距離を書記す点で，城廻絵図は，正保城絵図の表現様態と同様といえる．

改めて，幕府が各大名に提出を命じた城の絵図は，１度しか調製されてないことを想起したい．本城と支城が提出されている名古屋と犬山・仙台と白石・山形と東根・広島と三原・熊本と八代，さらに和歌山の支城である松坂，金沢の支城である富山も伝えられている状況を考えると，米子の正保城絵図は，鳥取藩により鳥取と共に調製され，幕府へ提出されたと考えたい．

併せて，正保城絵図の最終提出年が明暦２年である[7]ことを踏まえると，この城廻絵図の年代は，正保２年（１６４５）～明暦２年（１６５６）まで年代を遡ることになると考察する．

## 5．結　言

城廻絵図の年代は，現状で認識されている米子の最も古い城絵図としての寛文７年（１６６７）と城下町絵図での元禄３年（１６９０）という年代を矛盾することなく認めることができる表現といえる．城廻絵図の書込み内容は，特に「指渡の間数」・「地よりの高さ」の書き込が正保城絵図しかみられない表現であるように，正保城絵図の表現様態といえるものである．

現状では米子の正保城絵図は，存在したのか，幕府へ提出されたかどうかの記録も紹介されていない．ここでは，この城廻絵図が，米子の城と城下町を伝える最古の絵図として新たに位置づけられると同時に，正保城絵図を縮小した写し絵図であって，その調製年代は，正保２年（１６４５）～明暦２年（１６５６）間としてみることができる点を指摘しておくこととしたい．

**謝　辞**

関係資料の調査にあたり，東京大学附属総合書館，国立公文書館，鳥取県立博物館，鳥取県立鳥取図書館，鳥取県立公文書館のご高配を頂いた．記して深く感謝申しあげる次第である．

## 文 献

1）油浅耕三：流出した旧紅葉山文庫蔵会津・仙台・高田の正保城絵図についての一考察，日本建築学会計画系論文報告集，３７７．７，ＰＰ.１１９－１２８．

2）米子市史編さん協議会編：『新修米子市史・第１２巻』，米子市，１９９７．３，ｐ．８５．

3）米子市史編さん協議会編：『新修米子市史・第１２巻』，米子市，１９９７．３，ＰＰ．４３－５１．

4）原田伴彦・矢守一彦編：『浅野文庫蔵諸国当城之図』，新人物往来社，１９８２．１２，ｐ．１．

5）城戸久：伯耆米子城天守と四重櫓の建築，名古屋工業大学学報，２，１９５０．１２，ｐ．２．１－１１．

6）『伊達忠宗記録引證記　四』（国立公文書館蔵）正保元年１２月１６日の条では，「一　城絵図図之事」の見出しに続き「一　本丸二三丸間数之事　　一　堀乃ひろさ深サ之事　　一　天守之事　一　惣曲輪広サふかさの事　　一　城より地形高所在之者高キ所者城との間間数書付之事　　一　但し惣構より外ニ高所有之共書付之事　　一　侍町小路割并間数之事　　一　町屋右同断　　一　山城平城書様之事」の９つの城絵図調製条項がみられる．

7）油浅耕三：正保城絵図の最終提出年に関する考察，新潟工科大学紀要，４，１９９９．１２，ＰＰ．２３－２８．